

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

|                   |  |  |   |   |     |
|-------------------|--|--|---|---|-----|
| <b>教科・科目</b>      | 工業(機械科)・原動機  | <b>単位数</b>   | 2 単位  | <b>履修学年</b>   | 3 年 |
| <b>目 標</b>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーについて、歴史、現状、将来の問題点などについて理解する。</li> <li>・流体の基礎、流体機械の種類や機構を理解する。</li> </ul>  |  |   |   |     |
| <b>使用教材</b>       | <p>【教科書】原動機(実教出版)</p> <p>【副教材】2009年度版 工業高校機械科就職問題(一ツ橋書店)</p>   |  |   |   |     |
| <b>評価の観点・評価規準</b> | 「知識・技能」  | 「思考・判断・表現」   | 「主体的に取り組む態度」  |   |     |
|                   | 原動機に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現できる。   | 原動機に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。 | 原動機に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身につけている。 |   |     |
| <b>評価方法</b>       | 目標を踏まえ、原動機に対する「主体的に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。   |  |   |   |     |
| <b>学 期</b>        | <b>学 習 内 容</b>   |  |   | <b>学 習 の ね ら い</b>  |     |
| 1 学期              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーの利用の歴史                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)身近なエネルギーの利用</li> <li>(2)熱エネルギーの利用</li> </ul> </li> <li>・こんにちのエネルギーと動力                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)エネルギーの変換</li> </ul> </li> </ul>        |  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に必要な道具や機械をつくり、人力、畜力、風力、水力などの身近なエネルギーの利用について学ぶ。</li> <li>・熱そのものの利用と、光源としての利用であり、熱エネルギーを動力に変換する熱機関について学ぶ。</li> <li>・自然界にあるエネルギーと、動力への変換について学ぶ。</li> </ul> |     |
| 2 学期              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・流体機械の基礎                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)流体の基本的性質</li> <li>(2)圧力</li> <li>(3)管路の流れ</li> <li>(4)流体のエネルギー                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルヌーイの定理</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> |  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率よく流体機械を設計するために、流体の基本的な性質を学ぶ。</li> <li>・流体がもつ機械的エネルギーと内部的エネルギーの関係について学び、エネルギーの保存則についても理解する。</li> </ul>   |     |
| 3 学期              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・内燃機関のあらまし                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)内燃機関の分類と利用</li> </ul> </li> <li>・熱機関の基礎                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)温度と熱量</li> <li>(2)熱エネルギーの仕事</li> </ul> </li> </ul>                     |  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・流体の性質について、それぞれの特性や特徴、流体機器について学習します。</li> <li>・内燃機関について、基礎となる熱力学を学習します。</li> <li>・熱力学を活かした内燃機関のそれぞれの特性や特徴を学習します。</li> </ul>                                |     |
| <b>学習上の留意点</b>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・原動機は、動力についての学習であり、機械科の基礎・基本科目のひとつです。関心・意欲を持って取り組んでください。</li> <li>・流体や熱力学の学習では、いろいろな場面で計算力や読解力が必要となります。授業では問題集を用いて、それらの基礎についても学習します。</li> </ul>   |  |   |   |     |

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

|                |  |  |  |  |      |   |   |
|----------------|--|--|--|--|------|---|---|
| 教科・科目          | 工業（ロボットコース）・機械工作   | 単位数  | 2  | 単位   | 履修学年 | 3 | 年 |
| 目 標            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業材料の性質について理解する。</li> <li>・工業材料の加工方法について理解する。</li> <li>・合理的な生産方法を企画し、実際に活用できる能力と態度を身につける。</li> </ul> |  |  |  |      |   |   |
| 使用教材           | <p>【教科書】機械工作1（実教出版）<br/>                 機械工作2（実教出版）<br/>                 【副教材】自作教材（プリント）</p>  |  |  |  |      |   |   |
| 評価の観点<br>・評価規準 | 知識・技能  | 思考・判断・表現   | 主体的に取り組む態度   |  |      |   |   |
|                | 機械工作の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、現代社会における工業の意義や役割を理解している。   | 機械工作に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。<br>実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。 | 機械工作に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身につけている。 |  |      |   |   |
| 評価方法           | 到達目標を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」は、日々の授業に取り組む姿勢を中心に評価します。「知識・技能」「思考・判断・表現」は、課題、定期テストおよびノート提出を中心に評価します。これらを総合的に判断し評価します。                               |  |  |  |      |   |   |
| 学 期            | 学 習 内 容  |  |  | 学 習 の ね ら い  |      |   |   |
| 1 学期           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械工業の歩み</li> <li>・機械材料の性質</li> <li>・鋳造</li> <li>・塑性加工</li> </ul>                                     |  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械工業の歴史を学びます。</li> <li>・機械材料の性質および種類について学習します。</li> <li>・鋳造について学習します。</li> <li>・塑性加工について学習します。</li> </ul>  |      |   |   |
| 2 学期           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・溶接</li> <li>・表面処理</li> <li>・切削加工</li> <li>・砥粒加工と特殊加工</li> </ul>                                      |  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・溶接について学習します。</li> <li>・めっきやコーティングといった材料の表面処理について学習します。</li> <li>・旋盤やフライス盤といった切削加工について学習します。</li> <li>・砥石車を使った加工やレーザーなどを使った特殊な加工方法について学習します。</li> </ul> |      |   |   |
| 3 学期           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産の計画と管理</li> </ul>  |  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産方法や生産数などといった角度より必要となる工作方法や工作機械について、経済的で合理的な計画を考え、技術者としての態度を身につけます。</li> </ul>  |      |   |   |
| 学 習 上 の 留 意 点  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習をしっかりとし、日々の授業を大切にしてください。</li> <li>・与えられた課題は、提出期日を守り必ず提出してください。</li> </ul>                       |  |  |  |      |   |   |

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

|            |  |   |   |
|------------|--|---|---|
| 教科・科目      | 工業（電気工学コース）・電気回路   | 単位数 2 単位  | 履修年次 3 年  |
| 目 標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</li> <li>・ 工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ul>  |   |   |
| 使用教材       | <p>【教科書】電気回路2（実教出版）</p> <p>【副教材】電気回路1・2演習ノート（実教出版）</p>   |   |   |
| 評価の観点・評価規準 | 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|            | <p>さまざまな電気量について、その相互の関係を含めて十分に理解し、電気現象と電気量について関係づけながら説明することができる。現代社会における電気の意義や役割を理解している。</p>   | <p>さまざまな電気量を式の変形や計算によって処理するための基礎的な知識や技術を適切に活用できる。</p> <p>さまざまな電気現象について深く考えている。</p>  | <p>電気現象に興味や関心を持ち、意欲的にその原理を理解しようとしている。</p> <p>さまざまな電気量の計算を積極的にかつ正確に行おうとしている。</p> <p>身近な事象に対しても探求しようとする態度が備わっている。</p> |
| 評価方法       | <p>到達目標を踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、課題、定期考査およびノートなどを中心に評価します。「主体的に取り組む態度」は、日々の授業に取り組む姿勢を中心に評価します。</p>   |   |   |
| 学 期        | 学 習 内 容  | 学 習 の ね ら い   |   |
| 1 学期       | <p>第7章 三相交流</p> <p>1. 三相交流の基礎</p> <p>2. 三相交流回路</p> <p>3. 三相電力</p> <p>4. 回転磁界</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三相交流について、その発生、表し方を理解させる。</li> <li>・ Y-Y回路・<math>\Delta</math>-<math>\Delta</math>回路における電圧、電流の計算ができるようにさせ、<math>\Delta</math>-Y回路・Y-<math>\Delta</math>回路を理解させる。</li> <li>・ 三相交流の表し方、Y結線負荷および<math>\Delta</math>結線負荷の三相電力、三相電力の測定について理解させる。</li> <li>・ 回転磁界の発生と三相交流による回転磁界、二相交流による回転磁界について理解させる。</li> </ul> |   |
| 2 学期       | <p>第8章 電気計測</p> <p>1. 測定量の取り扱い</p> <p>2. 電気計測の基礎</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際単位系、標準器、誤差、有効数字などの取り扱いおよび、測定量、計器姿勢などの記号、精度階級などについて理解させる。</li> <li>・ 永久磁石可動コイル形計器、可動鉄片形計器、電流計形計器、デジタル計器の動作原理及び特徴などについて理解させる。</li> </ul>   |   |
| 3 学期       | <p>3. 基礎量の測定</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接測定と間接測定、偏位法と零位法の意味について理解させる。</li> <li>・ クランプメータ・電子電圧計・電力計・電力量計・周波数計・力率計・オシロスコープなどの原理を理解させ、正しく取り扱うことができるようにする。</li> </ul>   |   |
| 学習上の留意点    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これから学ぶ専門科目の基礎となる科目です。また、電気工事士や電気主任技術者等の各種資格・検定等でも必要となる科目です。意欲的に学習に取り組んでください。</li> <li>・ 基礎的な数学の知識が不可欠です。数学を苦手としている場合は、数学の復習をしながら学習を進める必要があります。</li> </ul> |   |   |

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

|                |   |   |  |   |     |
|----------------|---|---|--|---|-----|
| 教科・科目          | 工業(建築デザイン科)・デザイン史   | 単位数   | 2 単位   | 履修学年  | 3 年 |
| 目 標            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間による造形の始まり・意義を知る。</li> <li>・産業革命以降に生まれた「デザイン」の概念を理解する。</li> <li>・これからのデザインやものづくりの基本理念を考え、創造する力を養う。</li> </ul>  |   |  |   |     |
| 使用教材           | <b>【教科書】</b> デザイン史(東京電機大学)<br><b>【副教材】</b> 自主教材   |   |  |   |     |
| 評価の観点<br>・評価規準 | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度                                  |   |     |
|                | 古代・中世・近現代デザイン造形の基本的な事柄を研究する。歴史的事象と関連付けながら理解し、その知識を身につける。  | 近現代デザイン史に至る造形の歴史から課題を見いだす。世界史的視野に立って多面的・多角的に考察する。国際社会の変化を踏まえて創造する。古代・中世・近現代デザインの歴史についての諸資料を活用する。歴史的事象を追究し、その過程や結果を応用する。 | デザイン・造形の歴史に共感し課題意識を持つ。社会における創造的な活動・発展の過程を学習する。 |   |     |
| 評価方法           | 目標を踏まえ、デザイン史に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」、「知識・理解」、「技能・表現」については提出物と定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。   |   |  |   |     |
| 学 期            | 学 習 内 容   |   |  | 学 習 の ね ら い   |     |
| 1 学期           | 造形の始まり<br><br>日本<br>原始～古代<br><br>西洋<br>原始～古代  |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の造形の始まりとその意義を理解する。</li> <li>・仏教の影響を受けた古代文化の特徴とその造形の違いを理解し、工芸品や建築などを通して、華やかな貴族文化が生んだデザインの特徴を知る。</li> <li>・西洋の伝統的な歴史と風土とともに、造形の交流、発展、移り変わりについて、工芸品や建築などを参考に学習する。</li> </ul>   |     |
| 2 学期           | 日本<br>中世<br>・平安～室町時代(文化と造形の特徴)<br>近世<br>・安土、桃山～江戸時代(文化と造形の特徴)<br>・明治、大正時代(文化と造形の特徴)<br><br>西洋<br>近代<br>・近代デザインのはじまり<br>アーツ・アンド・クラフツ運動、<br>アール・ヌーヴォー等のデザイン運動<br>・近代デザインの成立と展開<br>バウハウス、アール・デコ等 |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本独自の文化を形成していった中世文化について理解する。</li> <li>・貴族文化から武士や庶民文化へと変化していった造形の特徴を読み取る。</li> <li>・西洋文化の影響を受けながら、鎖国による日本独自の上方、江戸の庶民文化を生み出した造形の特徴を知る。</li> <li>・世界に大きな影響を与えた西洋における近代デザイン運動の流れを知る。</li> <li>・イギリス産業革命により近代のデザイン運動がはじまる過程をアーツ・アンド・クラフツ運動を中心に理解する。</li> <li>・第一次大戦後にドイツで設立されバウハウスや、近代美術の運動を絡めながら、デザインが社会的に認められ展開する過程を理解する。</li> </ul> |     |
| 3 学期           | 現代<br>・世界のデザインの潮流と我が国のデザイン  |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境や国際交流、人権に目を向けたデザインが必要となっていくことを知る。</li> </ul>  |     |
| 学 習 上 の 留 意 点  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた課題は、提出期日を守り必ず提出してください。</li> <li>・予習・復習をしっかりとし、日々の授業を大切にしてください。</li> </ul>  |   |  |   |     |

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

|                   |  |   |  |             |     |
|-------------------|--|---|--|-------------|-----|
| <b>教科・科目</b>      | 農業(生物資源科)・農業経営   | <b>単位数</b>  | 2 単位   | <b>履修年次</b> | 3 年 |
| <b>目 標</b>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業生産や組織運営などにかかわるマネジメントなどの基礎的な内容を理解する。</li> <li>・どう販売するかといったマーケティングやお金の出入りを把握する会計について理解する。</li> <li>・自分の農業への考え方や取り組み方で、どんな経営をしていくかについて考える態度と能力を養う。</li> </ul> |   |  |             |     |
| <b>使用教材</b>       | 【教科書】農業経営(実教出版)  |   |  |             |     |
| <b>評価の観点・評価規準</b> | 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |             |     |
|                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営について体系的、系統的に理解している。</li> <li>・農業におけるマーケティング戦略の手法を習得している。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営に関する課題を発見し、合理的かつ創造的な解決を目指した考えを持っている。</li> <li>・経営に関する情報収集を行い、経営改善に向けて、自分の考えを表現できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを、農業の振興や社会貢献に活かそうとする態度がみられる。</li> <li>・平素の学習状況において努力し、積極的に取り組んでいる。</li> </ul>  |             |     |
| <b>評価方法</b>       | <p>目標を踏まえ、農業経営に対する「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断・表現・」「知識・技能」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。</p>                              |   |  |             |     |
| <b>学 期</b>        | <b>学 習 内 容</b>   |   | <b>学 習 の ね ら い</b>   |             |     |
| 1 学期              | 第1章 農業の動向と農業経営<br>日本と世界の農業<br>農業経営の動向<br>食料消費の動向と社会経済環境<br>食料・農業・農村政策と関係法規<br><br>第2章 農業のマネジメント<br>農業マネジメント  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と世界における農業の現状を知り、日本農業の実態と特徴について理解する。</li> <li>・家族経営の特徴を知り、企業経営との違いを理解する。</li> <li>・日本も含めた世界における食料の供給について、自分の考えを表現する。</li> <li>・農業経営をとりまく環境に、どう対応すべきかについて、自分の考えを表現する。</li> </ul> |             |     |
| 2 学期              | 第2章 農業のマネジメント<br>生産のマネジメント<br>組織のマネジメント<br>会計によるマネジメント<br>リスクのマネジメント<br><br>第3章 農業のマーケティング<br>マーケティング戦略<br>農産物のブランド化   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営の多角化について知り、経営規模を拡大する利点と方法について習熟する。</li> <li>・集团的取り組み、農業経営の法人化について理解する。</li> <li>・農業経営における会計と簿記の重要性とリスク管理について理解する。</li> <li>・農業におけるマーケティング戦略の手法、農産物のブランド化の手法を習得する。</li> </ul> |             |     |
| 3 学期              | 第4章 農業経営のマーケティング活動<br>市場調査と環境分析<br>農業経営の設計と診断  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場調査・環境分析のポイントと手順について理解する。</li> <li>・農業経営設計の手法を習得する。</li> <li>・農業経営診断方法を理解する。</li> </ul>   |             |     |
| <b>学習上の留意点</b>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に教科書の内容に沿って授業を進めます。必要に応じてプリント活用した授業を行います。</li> <li>・課題やレポートの提出は提出期限に遅れないように注意してください。</li> </ul>   |   |  |             |     |

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

|            |   |   |  |
|------------|---|---|--|
| 教科・科目      | 商業 ・ ビジネス基礎   | 単位数 2 単位  | 履修年次 3 年   |
| 目 標        | ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として、<br>①実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。<br>②ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。<br>③上記の内容をふまえ、必要な基礎的な資質・能力を身につけることを目指す。  |   |  |
| 使用教材       | 【教科書】 ビジネス基礎 (実教出版) 【副教材】 検定問題集   |   |  |
| 評価の観点・評価規準 | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|            | ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。  | ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。   | ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して、自らビジネスについて学ぶ態度及び当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、責任をもって取り組もうとしている。 |
| 評価方法       | (知識・技能) ・ (思考・判断・表現) 定期考査を元に行う。<br>(主体的に学習に取り組む態度) 授業ノート、ワークシート、日々の授業態度を元に行う。<br>具体的には日々の授業の取組態度、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価する。  |   |  |
| 学 期        | 学 習 内 容   | 学 習 の ね ら い   |  |
| 1 学期       | 商業の学習とビジネス<br><br>ビジネスとコミュニケーション<br>コミュニケーション・ビジネスマナー<br>情報の入手と活用   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解する。</li> <li>・ ビジネスにおける信頼関係の意義と重要性を学ぶ。</li> <li>・ ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じて考え、活動できる力を身に付ける。</li> <li>・ 企業活動における情報の重要性について理解する。</li> </ul>      |  |
| 2 学期       | 経済と流通の基礎<br><br>さまざまなビジネス<br><br>企業活動の基礎<br>マーケティングの重要性・資金調達<br>財務諸表の役割・企業活動と税・雇用   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済の仕組みと流通の必要性について理解する。</li> <li>・ ビジネスの種類について理解し、流通や流通に関わる様々なビジネスについて学ぶ。</li> <li>・ 企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につける。</li> </ul>                             |  |
| 3 学期       | ビジネスと売買取引<br>売買取引の手順・代金決済<br><br>ビジネス計算<br>ビジネス計算の意義と応用<br><br>身近な地域のビジネス   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を学ぶ。</li> <li>・ 契約の履行と締結について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につける。</li> <li>・ ビジネス計算に関する知識や技術を学ぶ。</li> <li>・ さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について学ぶ。</li> </ul> |  |
| 学習上の留意点    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業の学習はビジネスの学習であり、このビジネス基礎はビジネスの全体像を学ぶ科目です。そのため、卒業後の進路もふまえてビジネス計算やワープロの基礎についても学習します。</li> <li>・ 基礎的な知識や技術、心構えを身につけ、進路を考えるうえで、この学習を役立ててください。</li> <li>・ 授業の進捗状況で学習内容が入れ替わるなどの変更もあります。</li> </ul> |   |  |

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

|                |   |   |  |      |     |
|----------------|---|---|--|------|-----|
| 教科・科目          | 商業・財務会計 I   | 単位数   | 2 単位   | 履修年次 | 3 年 |
| 目 標            | 1. 会計における基本的考え方や処理法を習得させ、企業の実態を反映する財務諸表についての理解を深める。<br>2. 財務諸表から得られる情報を、ビジネスの諸活動に活用できる能力と態度を育てる。                              |   |  |      |     |
| 使用教材           | 【教科書】新財務会計 I (実教出版)      【副教材】検定対応問題集を予定  |   |  |      |     |
| 評価の観点<br>・評価規準 | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |      |     |
|                | 株式会社における簿記と会計に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につける。  | 処理法や記帳法、財務諸表の作成方法について自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につける。 | 株式会社における会計と簿記に関する基礎的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理するとともに、その成果を適切に表現する。  |      |     |
| 評価方法           | 目標を踏まえ、「関心・意欲・態度」については、日々の授業態度等を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行う。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査、小テスト等を総合的に判断し評価する。 |   |  |      |     |
| 学 期            | 学 習 内 容   |   | 学 習 の ね ら い  |      |     |
| 1 学期           | 第1編 財務会計の基礎<br><br>第2編 貸借対照表  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業会計の意味と目的を理解させる。</li> <li>・会計制度の意味と会計諸則の必要性を理解させる。</li> <li>・企業会計原則の役割と内容を明らかにし、一般原則の内容について理解させる。</li> <li>・資産の意味・分類を理解させる。</li> <li>・負債の意味と分類を明らかにし分類基準を理解させる。</li> <li>・株式会社の資本金について理解させる。</li> </ul> |      |     |
| 2 学期           | 第3編 損益計算書<br><br>第4編 その他の会計処理   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業会計における損益計算について理解させる。</li> <li>・損益法と財産法、現金主義、発生主義、実現主義について理解する。</li> <li>・役務収益・役務原価の意味を理解させる。</li> <li>・外貨建取引の意味を理解させる。</li> <li>・税効果会計の意味と役割を理解させる。</li> </ul>   |      |     |
| 3 学期           | 第5編 財務諸表の活用<br><br>発展編 連結財務諸表の作成  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業会計の意味と役割について理解させる。</li> <li>・財務会計の機能について理解させる。</li> <li>・株式会社の基礎的な会計処理について理解させる。</li> <li>・会計基準について理解させる。</li> <li>・連結財務諸表の意味や目的を明らかにし、連結財務諸表の概略を理解させる。</li> <li>・連結財務諸表の作成手続きを理解させる。</li> </ul>       |      |     |
| 学習上の留意点        | ・学習成果として日本商工会議所主催簿記検定2級および全国商業高等学校主催簿記検定1級(会計の部)の資格取得を目標としているので、その対策も行う予定である。   |   |  |      |     |

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| 教科・科目             | 商品開発と流通  | 単位数 2 単位  | 履修年次 3 年      |
|-------------------|--|---|---------------|
| <b>目 標</b>        | 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。<br>(1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。<br>(2) ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。<br>(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |   |               |
| <b>使用教材</b>       | 商品開発と流通 (実教出版)   |   |               |
| <b>評価の観点・評価規準</b> | 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <b>評価方法</b>       | (知識・理解) 日々の授業や定期考査を中心に評価を行う。<br>(思考・判断・表現) 提出物の状況、小テスト等を総合的に判断し評価する。<br>(主体的に学習に取り組む態度) 授業態度や小テスト等を総合的に判断し評価する。  |   |               |
| <b>学 期</b>        | <b>学 習 内 容</b>   | <b>学 習 の ね ら い</b>  |               |
| 1 学期              | 1 章 商品開発と流通の概要<br>2 章 商品の企画<br>1 私たちの生活と商品<br>2 商品開発の意義と手順<br>3 商品と流通との関わり   | 『商品開発と流通』の概要を理解する。<br>・商品の成り立ちおよびその捉え方について理解する。<br>・商品開発の意義、新商品の捉え方、商品ライフサイクルについて理解する。<br>・商品の企画に必要な環境分析について、企業における事例と関連付けて理解する。                                    |               |
| 2 学期              | 3 章 事業計画の立案<br>1 商品仕様と詳細設計<br>2 プロトタイプ<br>3 商品とデザイン<br>4 章 商品の開発   | ・商品開発と流通における事業計画について、その目的や手順について理解する。<br>・プロトタイプの種類と目的について理解する。<br>・プロトタイプを用いたテスト及び評価により、課題を書きらかにすることを理解する。<br>・コンピュータを用いて、ポスターのデザインを行う。<br>・ブランドについて、機能、構成要素等を理解する |               |
| 3 学期              | 5 章 商品の販売<br>1 販売員活動<br>2 セールスプロモーション<br>6 章 商品と流通に関わる新たな展開<br>1 商品開発の新たな展開<br>2 流通の新たな展開<br>3 感覚を活かした商品開発・流通  | ・セールスプロモーションについて理解し、企業における具体的な事例と関連付けて分類する。<br>・流通の新たな展開として情報システムの変化が流通に影響を及ぼしていることを理解する。<br>・感覚を活かしたプロモーション活動等を、企業における事例と関連付けて考察する                                 |               |
| <b>学習上の留意点</b>    | ・授業に集中し、わからないところをわからないままにせず、ICT 機器等を上手く用いて理解を深めて下さい。<br>・欠席や遅刻をしないように心がけてください。<br>・一つ一つの課題を期限厳守で提出してください。  |   |               |

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| 教科・科目          | 福祉(介護福祉コース)・こころとからだの理解  | 単位数  | 6  | 単位 | 履修年次 | 3 | 年 |
|----------------|---|--|--|----|------|---|---|
| 目 標            | ・自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を身につけ、介護実践に適切に活用できる能力を身につける。  |  |  |    |      |   |   |
| 使用教材           | 【副教材】こころとからだの理解 (実教出版)  |  |  |    |      |   |   |
| 評価の観点<br>・評価規準 | 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度                                      |    |      |   |   |
|                | ・こころとからだの基礎的な知識を理解し、生活支援を行う上で利用者の生活行動についての理解ができる。   | ・こころとからだの基礎的な知識を理解し、利用者のこころをふまえた介護の考えを持つことができる。<br>・こころとからだの理解をふまえた生活支援を行う判断ができる。<br>・生活支援の項目がなぜ必要なのかを説明することができる。  | ・介護に必要とされる、こころとからだの基礎的な知識について関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。 |    |      |   |   |
| 評価方法           | 目標を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに、総合的に判断し評価します。 |  |  |    |      |   |   |
| 学 期            | 学 習 内 容   | 学 習 の ね ら い  |  |    |      |   |   |
| 1 学期           | 発達と老化の理解<br>・人間の成長と発達<br>・老年期の理解と日常生活<br>・高齢者と健康  | ・人間の成長と発達について学びます。<br>・法律から老年期の定義、課題を学び、高齢者の生活を理解します<br>・生活習慣病・高齢者に多い病気について学びます。                                   |  |    |      |   |   |
| 2 学期           | 認知症の理解<br>・認知症をとりまく状況<br>・認知症の基礎的理解<br>・認知症に伴う心身の変化と日常生活<br>・認知症と地域サポート   | ・認知症の中核症状・周辺症状について学びます。<br>・認知症が及ぼす心理的影響や特徴について学びます。   |  |    |      |   |   |
| 3 学期           | 障害の理解<br>・障害の基礎的理解<br>・生活機能障害の理解<br>・障害に伴う心身の変化と日常生活<br>・障害と地域生活支援  | ・障害について、関係法規・ノーマライゼーション・リハビリテーションの考え方について学びます。<br>・各種障害の種類と原因等、医学的な基礎知識を学びます。<br>・各障害についての日常生活での介助や地域での支援について学びます。 |  |    |      |   |   |
| 学習上の<br>留 意 点  | ・国家試験では、「発達と老化の理解」、「認知症の理解」、「障害者の理解」と3科目に分かれ、問題数も多くなります。1項目ずつしっかりと勉強して学んでください。  |  |  |    |      |   |   |

## 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

| 教科・科目      | 福祉(生活福祉コース)・福祉情報   |  | 単位数  | 2 | 単位 | 履修年次 | 3 | 年 |
|------------|--|--|--|---|----|------|---|---|
| 目 標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</li> <li>・ 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェア、情報通信ネットワークなどを活用した福祉情報の処理ができる。</li> </ul> |  |  |   |    |      |   |   |
| 使用教材       | 【副教材】福祉情報活用  |  |  |   |    |      |   |   |
| 評価の観点・評価規準 | 知識・技術  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |   |    |      |   |   |
|            | 福祉における情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するための知識を身につけている。福祉情報に関する基礎知識ならびにコンピュータのハードウェア、ソフトウェアやアプリケーションソフトウェアの活用に関する基礎的な知識を身につけている。   | 情報を福祉に活用するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用し、情報を活用しやすい形に加工する工夫を行うとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを用いた情報の整理や加工、情報通信ネットワークを活用した情報の収集・発信などの基礎的な技能を身につけ、福祉情報の活用ができる。 | 福祉における情報の活用に関心を持ち、福祉の諸活動において情報を主体的に活用しようとする。福祉情報の収集、整理・加工、伝達に情報技術を活用するための知識・技術を積極的に身につけようとしている。  |   |    |      |   |   |
| 評価方法       | 目標を踏まえ、福祉情報に対する「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「知識・技術」および「思考・判断・表現」は、定期考査または小テスト、調べ学習や課題の内容を中心に評価を行います。  |  |  |   |    |      |   |   |
| 学 期        | 学 習 内 容  |  | 学 習 の ね ら い  |   |    |      |   |   |
| 1 学期       | 文書ソフト、表計算ソフトの活用  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文書ソフトや表計算ソフトの特徴や使い方を実践的かつ能動的に学びます。</li> <li>・ 福祉分野に関連する諸課題に対する問題解決能力を養います。</li> </ul>           |   |    |      |   |   |
| 2 学期       | プレゼンテーションソフト、動画編集ソフトの活用  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレゼンテーションソフトおよび動画編集ソフトの特徴や使い方を実践的かつ能動的に学びます。</li> <li>・ 福祉分野に関連する諸課題に対する問題解決能力を養います。</li> </ul> |   |    |      |   |   |
| 3 学期       |  |  |  |   |    |      |   |   |
| 学習上の留意点    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正確かつスピーディーにタイピングできることが基本となります。授業外でも積極的にタイピング練習をしましょう。</li> <li>・ 2年次に引き続き、ビジネス文書実務検定の上の級を受験することも可能ですが、授業内では対策はしません。</li> </ul>                  |  |  |   |    |      |   |   |